

科目名		技術経営論(Management of Technology)							
学年	学科(コース)	単位数		必修/選択	授業形態	開講時期	総時間数		
第5学年	経営情報学科	学修	1単位	選択	講義	後期	45時間		
担当教員		【常勤】助教 根岸 可奈子							
学習到達目標									
科目の到達目標レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・各国特有の技術経営の特徴を説明することができる。 ・企業における経営戦略としての技術の役割を説明できる。 ・企業における技術経営の事例を分析し考察することができる。 								
到達目標(評価項目)	優れた到達レベルの目安	良好な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安	未到達レベルの目安					
到達目標①	日米およびアジア地域で展開されている技術経営の特徴を説明し、独自の考察を示すことができる。	日米およびアジア地域で展開されている技術経営の特徴を説明することができる。	日米でそれぞれ展開されている技術経営の特徴を説明することができる。	技術経営におけるどの国の特徴も説明することができない。					
到達目標②	学習理論や組織論を踏まえて技術経営における戦略を説明し独自の考察を行うことができる。	学習理論や組織論を踏まえて技術経営における戦略を説明することができる。	学習理論や組織論に関連した技術経営における戦略に関する用語の説明ができる。	学習理論や組織論に関連した技術経営における戦略に関する用語の説明ができない。					
到達目標③	技術経営に関する事例を自分で見つけ情報収集を行い分析をし、考察することができる。	技術経営に関する事例を自分で見つけ情報収集を行い分析することができる。	技術経営に関する事例を自分で見つけ出し、関連する情報を調べることができる。	技術経営の実例とその他の事例の判別がつかない。					
学習・教育到達目標	◎②	JABEE基準1(2)		(d)-1					
達成度評価(%)									
評価方法	中間試験	期末・学年末試験	小テスト	レポート	口頭発表	成果品	ポートフォリオ	その他	合計
指標と評価割合									
総合評価割合	45	45		5	5				100
知識の基本的な理解【知識・記憶・理解レベル】	◎	◎							/
思考・推論・創造への適用力【適用・分析レベル】	○	○		○					
汎用的技能【論理的思考力】	○	○		◎					
態度・志向性(人間力)【主体性】				○	○				
総合的な学習経験と創造的思考力【創成能力】					◎				

関連科目，教科書および補助教材

関連科目	経営組織論
教科書	無し。毎回レジュメを配布する。
補助教材等	適宜雑誌記事、新聞記事を配布する。

学習上の留意点

馴染みにくい分野の話が出てくるため、事例を多く用いる。各事例が何を示そうとしているのかに留意して聞くこと。試験の配点が大きめであるが、基本事項の確認が中心となるため、毎回指摘されるポイントを落とさないよう理解するように。

担当教員からのメッセージ

技術は企業の競争優位や持続可能性に直結している。技術そのものに接する機会は少ないかもしれないが、あくまで経営学をベースに進めていくので、これまで学んだことを思い出しながら取り組んでほしい。

授 業 の 明 細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	講義紹介	講義の進め方、評価方法について説明できる。	(予習) シラバスに目を通す (復習) シラバスおよび配布資料の見直し
2	日本の技術経営特性	日本企業における技術経営の強みと弱みを説明できる。	(予習) 1回の見直し (復習) 日本企業の特性を確認する。
3	アメリカの技術経営特性	アメリカ企業における技術経営の強みと弱みを説明できる。	(予習) 2回内容の見直し (復習) アメリカ企業の特性を確認する。
4	韓国、中国の技術経営特性	サムスン社、鴻海社、ハイアール社の事例をベースに各国の特徴を説明できる。	(予習) 3回内容見直し (復習) 韓国・中国企業の特性を確認する
5	研究から産業化におけるプロセス	研究、開発、事業化、産業化の間にある「関門」について説明できる。	(予習) 4回内容の見直し (復習) 3つの関門の特徴をまとめる
6	戦略論からみる技術経営	学習理論やコア技術戦略について説明できる。	(予習) 5回内容の見直し (復習) 戦略的特徴をまとめる
7	技術とマーケティング	技術の活用についてマーケティングの観点から幅広く説明できる。	(予習) 6回内容の見直し (復習) マーケティングの特性をまとめる
8	中間試験		
9	中間試験解説	中間試験の解説を行うことにより誤った理解を訂正すると同時に同範囲について復習し各回の具体的なポイントについて説明できる。	(予習) 自己採点 (復習) 間違えた個所の解き直し
10	組織構造とマネジメント	アーキテクチャと産業構造について説明できる。	(予習) 組織論の見直しをする (復習) アーキテクチャについてまとめる
11	新技術と倫理的課題	技術の活用について倫理的な課題に技術者としてどのように取り組んだらよいか意見を述べるができる。	(予習) 10回内容の見直し (復習) 倫理的課題についてまとめる
12	技術移転と海外研究開発	広く国内外で活動する企業が内部で技術をどのように活用しているのかを説明できる。	(予習) 発表準備を行う (復習) 技術移転についてまとめる
13	学生による発表 1	興味のある企業ないし商品を選択し、その企業における技術経営を説明し課題を取り上げ解決策を提示することができる。	(予習) 発表準備を行う (復習) 9・10回のまとめを見直す
14	学生による発表 2	興味のある企業ないし商品を選択し、その企業における技術経営を説明し課題を取り上げ解決策を提示することができる。	(予習) 発表準備を行う (復習) 全回のレジュメを見直す
	期末試験		
15	期末試験解説	中間試験の解説を行うことにより誤った理解を訂正すると同時に同範囲について復習し各回の具体的なポイントについて説明できる。	(予習) 自己採点 (復習) 間違えた個所の解き直し
総 学 習 時 間 数			45時間
講 義			30時間
自学自習			15時間